

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

豪州、失業率悪化も雇用環境に改善の兆候 (Asia Weekly (3/13～3/17))

～インド、川上から物価上昇圧力がじわじわ高まる動き～

発表日: 2017年3月17日(金)

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

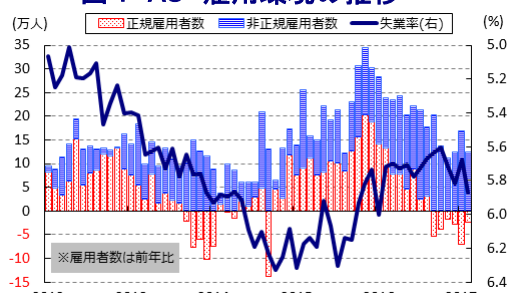
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
3/13(月)	(マレーシア)1月鉱工業生産(前年比)	+3.5%	+5.3%	+4.7%
3/14(火)	(中国)2月小売売上高(前年比/年初来)	+9.5%	+10.6%	+10.4%
	2月鉱工業生産(前年比/年初来)	+6.3%	+6.2%	+6.0%
	2月固定資産投資(前年比/年初来)	+8.9%	+8.3%	+8.1%
	(インド)2月消費者物価(前年比)	+3.65%	+3.60%	+3.17%
3/15(水)	(韓国)2月失業率(季調済)	4.0%	3.9%	3.6%
	(フィリピン)1月海外送金(前年比)	+8.6%	+5.3%	+3.6%
	(インドネシア)2月輸出(前年比)	+11.16%	+16.06%	+27.87%
	2月輸入(前年比)	+10.61%	+15.11%	+14.34%
	(インド)2月輸出(前年比)	+17.5%	--	+4.3%
	2月輸入(前年比)	+21.8%	--	+10.7%
3/16(木)	(ニュージーランド)10-12月期実質GDP(前年比)	+2.7%	+3.2%	+3.3%
	(豪州)2月失業率(季調済)	5.9%	5.7%	5.7%
	(香港)2月失業率(季調済)	3.3%	3.3%	3.3%
	(インドネシア)金融政策委員会(7日物リバースレポ金利)	4.75%	4.75%	4.75%
3/17(金)	(シンガポール)2月非石油輸出(前年比)	+21.5%	+12.5%	+8.6%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

【豪州】～失業率は悪化するも、雇用者数及び労働力人口ともに拡大の動きが広がるなど改善の兆候も～

16日に発表された2月の失業率(季調済)は5.9%となり、前月(5.7%)から0.2pt悪化した。失業者数は前月比+2.6万人と前月(同▲1.9万人)から2ヶ月ぶりに拡大に転じており、雇用形態別でも正規雇用に対する求職者数(同+1.1万人)のみならず、非正規雇用に対する求職者数(同+1.5万人)もともに増加するなど雇用を取り巻く厳しさは増している。ただし、地域別では概ねすべての州で失業者が増加しているものの、鉱物資源を巡る活況を反映して西オーストラリア州では底堅さがうかがえる。その一方、雇用者数は前月比▲0.6万人と前月(同+1.3万人)から5ヶ月ぶりに減少に転じており、正規雇用者(同+2.7万人)は2ヶ月ぶりに拡大に転じる一方、非正規雇用者(同▲3.3万人)が4ヶ月ぶりに減少に転じたことで雇用者数全体の下押し圧力が繋がった。なお、失業者数が拡大した背景には、労働力人口が前月比+2.0万人と前月(同▲0.5万人)から2ヶ月ぶりに拡大に転じるなど労働市場への参入人口が増大したことも影響しており、労働参加率は64.6%と前月(64.6%)から横這いで推移している。中期的な傾向からは雇用者数の拡大ペースに底入れ感が出るなか、労働力人口の拡大ペースにも加速感が出るなど改善の動きが出ている一方、失業者数も増加に転じており、雇用を巡るミスマッチが生じている様子もうかがえる。

図1 AU 雇用環境の推移



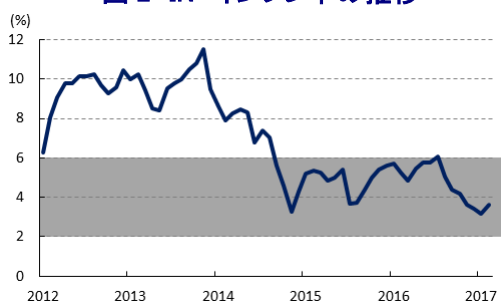
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[インド] ～川上を中心に物価上昇の兆しが顕著になるなか、先行きのインフレ率は上昇基調が強まろう～

14日に発表された2月の消費者物価は前年同月比+3.65%となり、前月(同+3.17%)から加速したものの、引き続き準備銀(中銀)が定めるインフレ目標(4±2%)の範囲内に収まっている。前月比は+0.23%と前月(同▲0.08%)から4ヶ月ぶりに上昇に転じており、生鮮品を中心とした食料品価格の下落基調が一巡しつつあるなか、原油相場の底入れなどを反映してエネルギー価格の上昇圧力が高まるなど、生活必需品を中心に物価上昇圧力が高まりつつある。また、昨年11月に突如実施された高額紙幣廃止措置に伴う悪影響が一巡しつつあるなか、個人消費に底入れの動きが出ていることから、幅広く物価上昇圧力が高まる動きもみられる。なお、当研究所が試算した食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率はわずかに減速しているものの、依然として物価上昇圧力が高まりつつある。さらに、川上の物価に当たる卸売物価は前年同月比+6.55%と前月(同+5.25%)から一段と加速して3年3ヶ月ぶりの高水準となっており、前月比も+0.49%と前月(同+0.71%)から2ヶ月連続で上昇するなど上昇基調が続いている。国際商品市況の上昇を反映して一次産品を中心に物価上昇圧力が高まっており、今後は価格転嫁の動きを反映する形で幅広く物価上昇圧力が高まることも予想される。こうしたことから、先行きのインフレ率についても上昇基調が強まる可能性が高まっている。

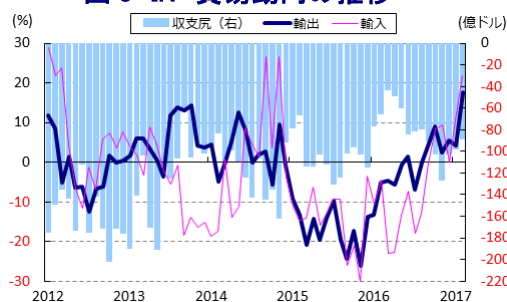
15日に発表された2月の輸出額は前年同月比+17.5%となり、前月(同+4.3%)から伸びが加速した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりに拡大に転じている上、基調としても拡大ペースが強まっており、世界経済の循環的な回復が輸出の追い風になっている。機械製品や医薬品をはじめとする化学製品関連の輸出が堅調なほか、宝飾品関連の輸出も大幅に拡大して輸出を押し上げている。一方の輸入額は前年同月比+21.8%となり、前月(同+10.7%)から伸びが加速している。前月比も2ヶ月ぶりに拡大に転じている上、基調としても拡大ペースが加速する動きがみられる。原油相場の上昇一服を受けて原油関連の輸入は鈍化する一方、金価格の上昇を反映して金の輸入額が大幅に押し上げられたほか、堅調な国内需要に伴い機械製品など幅広い財で輸入額は底堅く推移している。結果、貿易収支は▲88.96億ドルと前月(▲98.41億ドル)から赤字幅が縮小している。

図2 IN インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 IN 貿易動向の推移



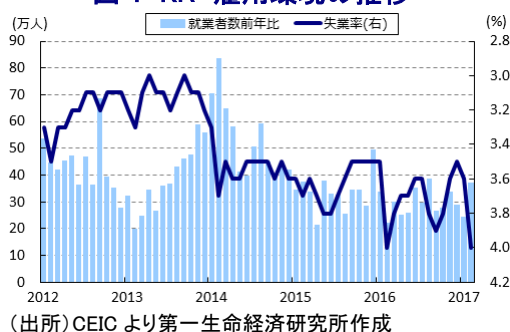
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[韓国] ～失業率は悪化も、雇用者数及び労働力人口に増加の動きがみられるなど改善の兆候も出ている～

15日に発表された2月の失業率(季調済)は4.0%となり、前月(3.6%)から0.4pt悪化して1年ぶりに

4%台となった。失業者数は前月比+12.6万人と前月（同+2.8万人）から2ヶ月連続で増加しており、50代以上の高齢層で減少している一方、20代では同+8.7万人と大幅に拡大するなど若年層を中心に厳しい状況が続いている。一方、雇用者数は前月比+13.9万人と前月（同▲7.4万人）から2ヶ月ぶりに拡大に転じており、年齢別でもすべての階層で拡大する動きがみられるなど、雇用環境そのものは改善に向かう兆しもうかがえる。雇用形態別でも非正規雇用を中心に調整圧力はくすぶるものの、そのペースは鈍化している上、正規雇用を中心に底堅く推移している。なお、失業率が悪化した背景には労働力人口が前月比+2.7万人と前月（同▲0.5万人）から2ヶ月ぶりに拡大に転じたことがあり、減少基調が続いてきた10代や20代といった若年層のみならず、30代や40代といった働き盛り世代でも拡大するなど、幅広い年齢層で求職活動が活発化していることが影響している。結果、労働参加率は63.4%と前月（62.8%）から0.6pt上昇しており、多くの年齢層で労働参加率が上昇するなど、労働環境を巡るマインドが改善する動きもみられる。

図4 KR 雇用環境の推移



【インドネシア】 ～貿易収支の黒字基調が続くなか、米利上げの影響を警戒して政策金利据え置きを継続～

15日に発表された2月の輸出額は前年同月比+11.16%となり、前月（同+27.87%）から伸びが鈍化した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりに減少に転じている上、拡大基調が続いてきた流れにも一服感が出ている。原油相場が頭打ちしていることを受けて原油や石油製品関連の輸出に下押し圧力が掛かったことに加え、国際商品市況の鈍化に伴いその他の鉱物資源関連の輸出が大きく鈍化したことも輸出全体の重石になっている。とはいえ、世界経済の循環的な回復などを追い風に製造業関連のほか、農産品などの輸出は底堅く推移している。一方で2月の輸入額は前年同月比+10.61%となり、前月（同+14.34%）から伸びが鈍化した。前月比も2ヶ月ぶりに減少に転じており、拡大基調が続いてきた流れにも一服感が出ている。原油や天然ガス関連の輸入は引き続き堅調な推移をみせる一方、それら以外の輸入額が大幅に鈍化しており、国内経済の拡大ペースに一服感が出ている可能性も考えられる。結果、貿易収支は+13.19億ドルと前月（+14.33億ドル）から黒字幅がやや縮小している。

16日、インドネシア銀行は定例の金融政策委員会を開催し、政策金利である7日物リバースレポ金利を4.75%に据え置く決定を行った。これに伴い短期金利の下限である翌日物預金ファシリティー金利（FASBI）並びに上限である翌日物貸出ファシリティー金利もそれぞれ4.00%、5.50%に据え置かれている。同行が金利据え置きを決定するのは今回で5会合連続となる。会合後に発表された声明文では、足下の世界経済について「様々なリスクを注視する必要はあるが、改善が続くと期待される」とともに、同国経済についても「今年の第1四半期は投資の拡大に加え、旺盛な消費や輸出の改善をけん引役に景気拡大が続いている」との見方を示している。また、足下で貿易黒字が続いていることを受けて通貨ルピア相場は「上昇基調を強めている」とし、インフレ率についても「管理可能な水準にある」との認識を示している。今回会合では、経済や物価に対する同行の見通しに変更はないものの、「世界的に先行きに対する不透明感が強まるなか、マクロ経済及び金融の安定を維持する観点から据え置きを決定した」との認識を示しており、今後については「米国の利上げによる影響を注視する」との考えをみせている。足下の金融市場は米国の利上げにも拘らず落ち着いた推移が

続いているなか、先行きも現行のスタンスを維持する可能性は高いと予想される。

図5 ID 貿易動向の推移

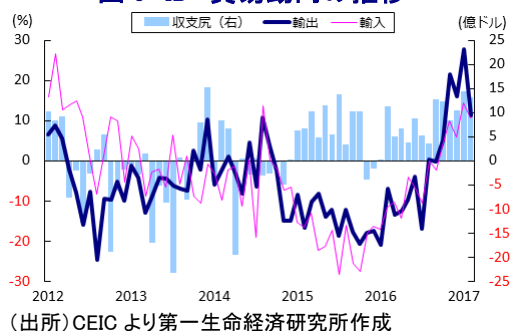
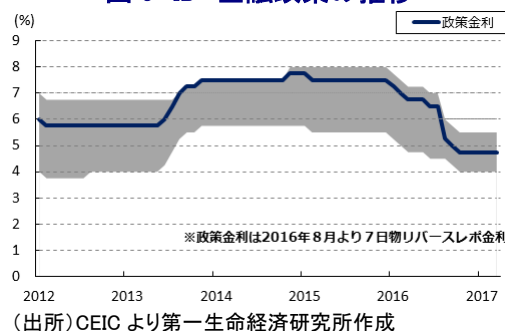


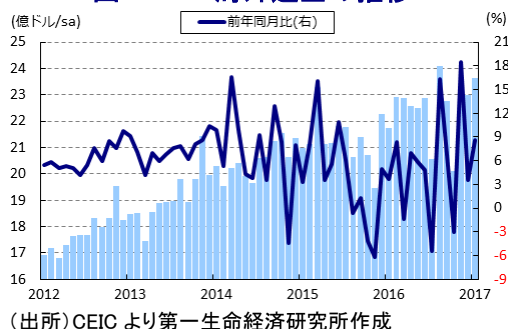
図6 ID 金融政策の推移



【フィリピン】 ～米国など先進国の移民送金は頭打ちも、中東をはじめ新興国からの堅調な流入が下支え～

15日に発表された1月の海外移民労働者からの送金流入額は前年同月比+8.6%となり、前月(同+3.6%)から伸びが加速した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月ぶりに拡大に転じており、基調としても拡大傾向が強まるなど、世界経済の循環的な回復が続いていることも追い風に送金流入は堅調な推移をみせている。国・地域別では、最大の流入元である米国からの流入に大きく下押し圧力が掛かる動きもみられたが、米国に次ぐ流入元となっている中東圏からの流入がOPEC(石油輸出国機構)に拠る減産合意などに伴う原油相場の底入れも背景に堅調に拡大し、下支えしている。さらに、香港を含む中国のほか、シンガポールなどアジア新興国からの流入も比較的底堅く推移しており、米国など先進国からの流入減少を補っている。また、当月は国際金融市場が落ち着きを取り戻し、通貨ペソの対ドル為替レートはわずかに上昇したが、ペソ建てで換算した流入額は前月比でプラスを維持し、個人消費をはじめ内需を下支えすると期待される。

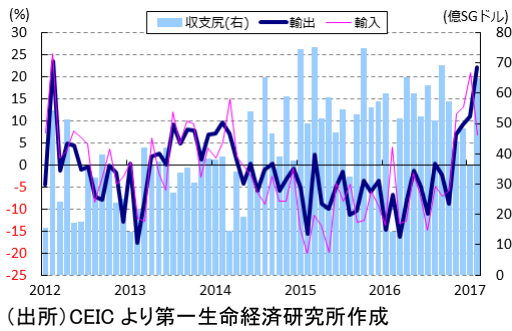
図7 PH 海外送金の推移



【シンガポール】 ～世界経済の自律的な回復の進展を追い風に、幅広い分野で輸出の拡大が続いている～

17日に発表された2月の非石油輸出額は前年同月比+21.5%となり、前月(同+8.6%)から伸びが大幅に加速して3ヶ月ぶりに2桁%となる高い伸びとなった。前月比も+1.45%と前月(同+5.00%)から2ヶ月連続で拡大しており、世界経済の自律的な回復も追い風に輸出が押し上げられている。電子機器関連をはじめとする機械製品の輸出が堅調なほか、化学製品関連の輸出も拡大基調が続くなど底堅く推移している。原油関連を含む総輸出額も前年同月比+22.1%と前月(同+11.1%)から伸びが加速している上、前月比も+1.4%と前月(同▲0.4%)から2ヶ月ぶりに拡大に転じるなど、堅調な推移をみせている。一方の輸入額は前年同月比+6.8%となり、前月(同+20.9%)から伸びが鈍化している。前月比は▲9.7%と前月(同+5.2%)から5ヶ月ぶりに減少に転じており、拡大基調が続いてきた輸入に一服感が出ている。主力の機械製品の輸入額が鈍化したほか、原油相場の頭打ちを反映して原油関連の輸入にも下押し圧力が掛かった。結果、貿易収支は+64.77億SGドルと前月(+36.61億SGドル)から黒字幅が拡大している。

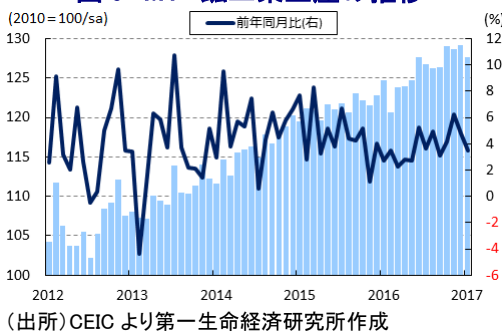
図8 SG 貿易動向の推移



【マレーシア】 ～商品市況の頭打ちで鉱業生産に一服感も、輸出の堅調を追い風に製造業で生産拡大続く～

13日に発表された1月の鉱工業生産は前年同月比+3.5%となり、前月(同+4.7%)から伸びが鈍化した。前月比も▲1.2%と前月(同+0.4%)から3ヶ月ぶりに減少に転じており、拡大基調が続いてきた生産に一服感が出ている。昨年半ばを期に相場の底入れが進んできた国際商品市況の上昇に一服感が出るなか、原油や天然ガス関連を中心とする鉱業部門の生産に頭打ち感が出ていることに加え、電力関連の生産が鈍化したことも生産の重石になった。他方、このところの世界経済の循環的な回復を背景に輸出が堅調な推移をみせるなか、製造業では生産拡大の動きが続いており、主力の輸出財である電気機械や機械製品関連などを中心に生産は底堅い動きをみせている。先行きについては引き続き輸出の動向が生産を左右する展開が続くものと予想される。

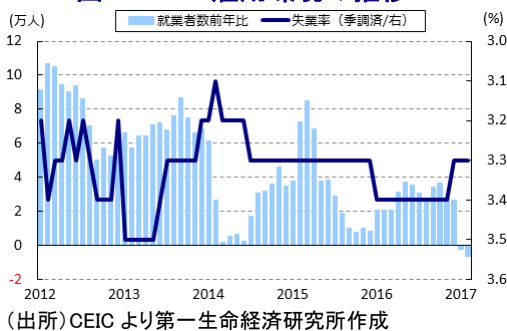
図9 MY 鉱工業生産の推移



【香港】 ～失業率は4ヶ月連続の横這いで推移、中国本土の減速懸念後退で労働市場への参入の動き拡大～

16日に発表された2月の失業率(季調済)は3.3%となり、前月(3.3%)から4ヶ月連続で横這いでの推移が続いている。失業者数は前年同月比▲0.35万人と3ヶ月連続で減少している上、前月(同▲0.10万人)から減少ペースが加速している。その一方、雇用者数も前年同月比▲0.7万人と2ヶ月連続で減少している上、前月(同▲0.3万人)から減少ペースが加速しており、雇用を取り巻く環境はまちまちの展開が続いている。なお、労働力人口は前年同月比+3.3万人と前月(同+2.1万人)から拡大基調が加速しており、中国本土経済の減速懸念が後退するなかで、労働市場への参入に向けた動きが強まっている様子もうかがえる。

図10 HK 雇用環境の推移



以上